



1. 使用するつるを数時間から半日程度水につけて柔らかくします。
(お湯で茹でると短い時間で済みます。)

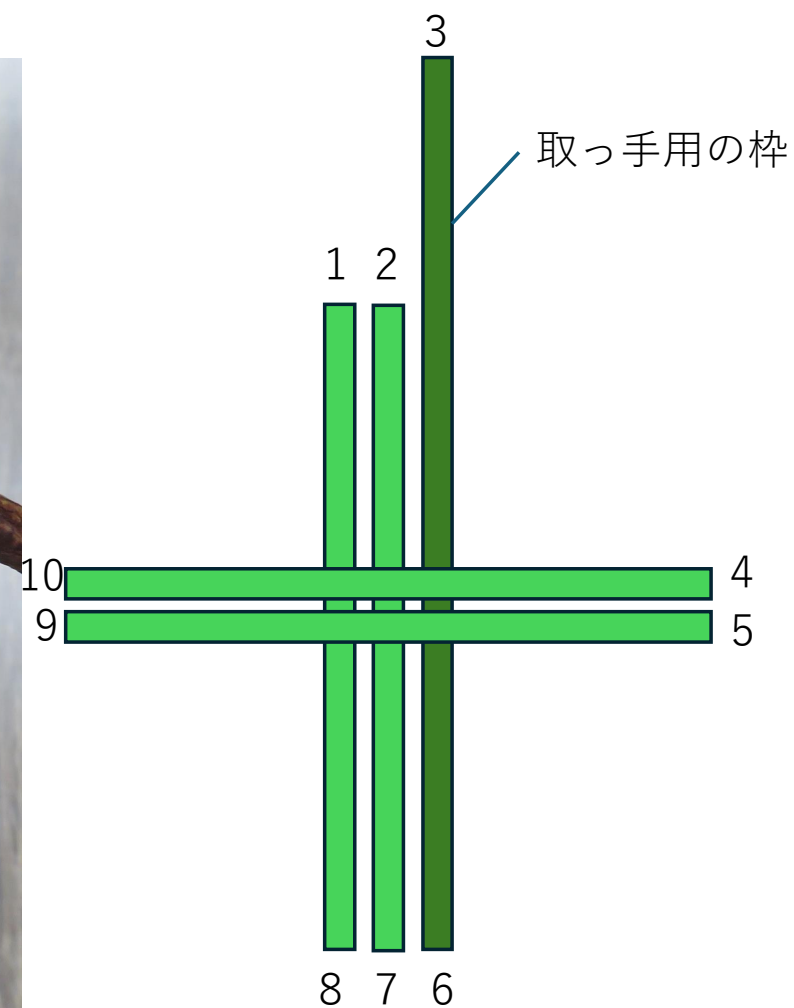
つるを曲げてみてパキッと折れなければ大丈夫です。



30 cm程度の枠用のつるを好きな数用意します（5本以上がおすすめです。）
取っ手付きのものを作成したい場合は、1本のみ2倍（60 cm）以上の長さにして
おきます。

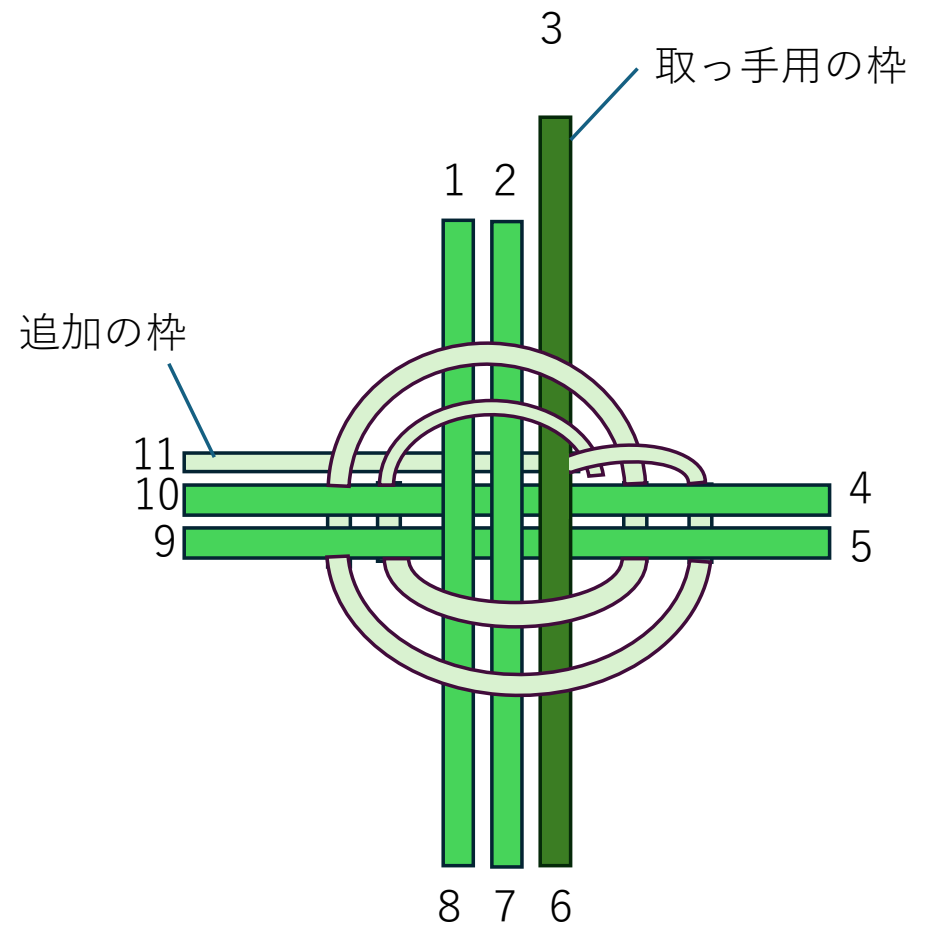


棒用のつるを半分に分けて十字に重ねます。
これにより、棒が10本できていることが確認でき
ます。





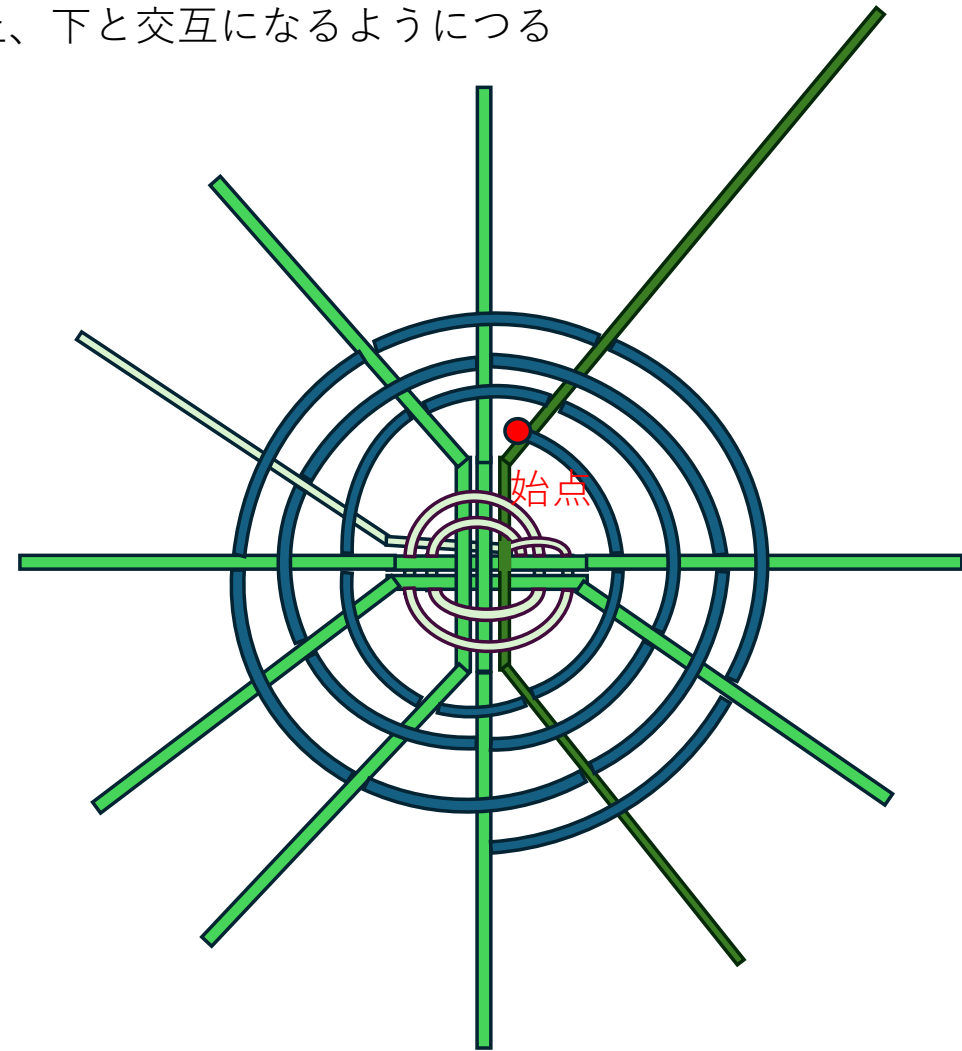
棒の1.5倍（4 5 cm） くらいの長さの棒を追加で1本用意し、図
のとおり巻き付けて固定し、棒の数を奇数（今回は11本）に
します。



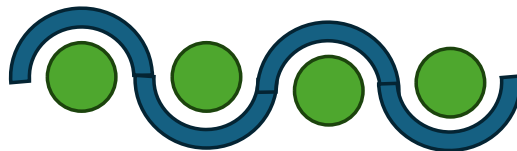


つるを編んでいきます。適当な場所から巻き始め、
枠の上、枠の下、上、下と交互になるようにつる
を通していきます。

上からの
イメージ

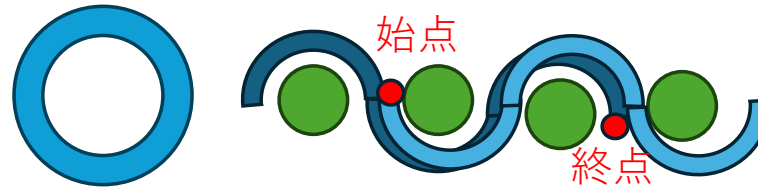


横からの
イメージ

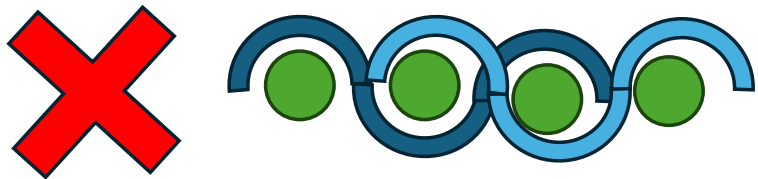




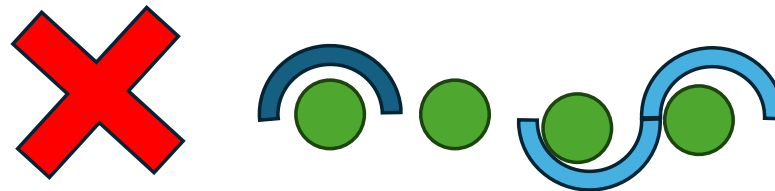
ひたすらつるを編んでいきます。
つるが無くなったら、新しいつるを使って、続きから枠の上下の順番がずれないように編んでいきます



新しいつるは、前のつるの終点より少し前から編み始めるとgood!



新しいつると、前のつるの枠の上下が
違う



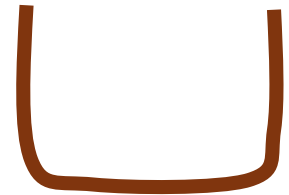
新しいつると、前のつるが離れている



つるを編むときに少し強めに締めていくと、枠が立ち上がっていき、かごの形になっていきます。締める力を少しずつ強めていくとお碗のような丸い底になり、一度に強く締め上げると角が立った平らな底になります。



少しずつ締め上げた
場合



一度に強く締め上げた
場合

杵の残りが5 cm程度になったら、杵を折り曲げて横巻きのつるに差し込んで固定します。

（つるが乾燥していて杵が折れてしまう場合は、この状態のまま水に浸して、再度吸水させ、柔らかくします。）



全ての枠を差し込んだら完成です。

全て差し込むのが難しい場合は、枠を切ってしまう問題ありませんが、一番上段の横巻きのつるがほどけてしまわないよう、2段目や3段目のつるとひもなどで縛っておくとよいでしょう。

取っ手用の長い枠がある場合は、取っ手用の枠が出ている反対側に長い枠を差し込んで固定し、完成です。





編み方しだいでは両手鍋のように取っ手を2つつけたり、平ざるのような平べったい形にしたり、ツボのように入口をすぼめることもできます。

また、様々な種類のつるを使うと、色の変化があって綺麗に見えます。